

校外学習を受け入れて

～セカンドスクールの対応～

波崎共栄漁業協同組合女性部
副部長 竹中 富美子

1. 地域の概要

波崎町は茨城県最南端に位置する、自然の豊かな町です。「リゾートの街」として広報しており、大学や高校の運動サークル合宿地のほか夏には海水浴客で賑わうなど、年間を通じ多くの若者が訪れ、活気を帯びてきております。

波崎共栄漁協は、波崎町の南端にあり、千葉県銚子市とは目と鼻の先という場所にあります。所属する組合員は108名で、海面・内水面とも豊かな漁場を有する、良好な立地条件に恵まれています。

2. 漁業の概要

主な漁業は、小型船による沿岸漁業が中心で、シラス・コウナゴなどを対象とする船曳網漁業やハマグリ・ホッキガイを対象とした貝桁網漁業、ヒラメを対象とした建網漁業のほか、たこつぼや小型底曳き網漁業など、季節に合わせていろいろな漁業を営んでいます。

3. グループの組織と運営

波崎共栄漁協女性部は、平成15年現在、60名の部員で構成されていて、組織の役員は部長1名、副部長2名、会計2名、班長6名という配置になっています。

年間の活動費は、部員の年会費によって賄われています。

4. 実践課題選定の動機

セカンドスクールの対応について本音を言うと、去年は急に話が舞い込んできたこともあり、その時は「しょうがないなあ」という感じで対応しました。

しかし、今年は受ける・受けないということを考える時間をもらい、部の中で話し合いをして最終的には受けるということになり、当漁協を訪れる子供達に「ホッキカレー」をご馳走することにしました。

なぜ「ホッキカレー」にしたかと言いますと、波崎共栄漁協では、ホッキガイが名産品となっているため、普及のためにちょうど良いと考えたからです。そして何より、他では滅多に食べられないものなので、きっと子供達にも喜んでもらえると思ったからです。

5. 実践活動の状況及び成果

まず、セカンドスクールとは何かということについてお話ししたいと思います。このセカンドスクールとは、東京都武蔵野市の各小中学校が、自然環境に恵まれた場所で、学期中に長期間滞在して行う校外学習のことで、波崎共栄漁協を訪れるのは今回で2回目になります。今年は、武蔵野市立千川小学校5年生の生徒60名が来訪いたしました。昨年もそうでしたが、来訪の日程は1日だけで、その対応には、研究会と女性部が当たりました。



子供達はまず、漁業についての学習を行いました。これには、研究会が対応に当たりました。研究会では、当初、子供達に地曳き網の体験をさせてあげたいと考え準備をしていましたが、当日は朝からあいにくの強風で、地曳き網の体験操業は行えませんでした。そこで、天候不良の時に予定していた、漁業者の体験談などを聞いたり、水産業に関する質問に答える「勉強会」を、波崎共栄漁協の市場で実施しました。どのような学習会だったのかは、私たちが直接立ち会っていないの

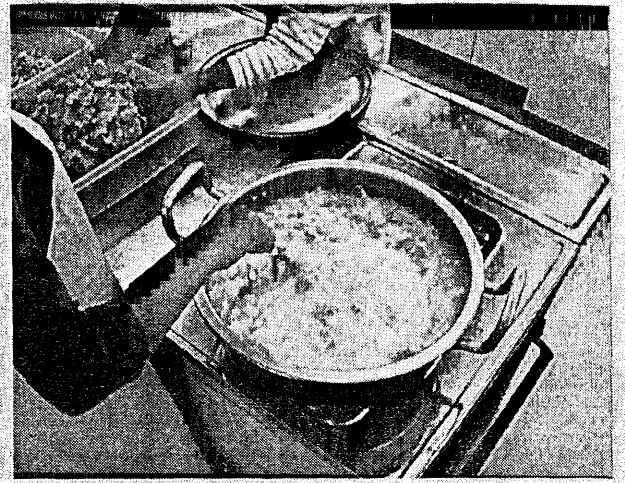
で判りませんが、実施した研究会役員の話では、「プランクトンがいっぱいいると、なぜ赤潮になってしまうの？」など、自分たちの考えもつかない様な質問が多かったそうです。

ちょうど子供達が市場で勉強会をしている頃、私達の方は波崎町立生涯学習センターに集まり、子供達のためにホッキカレーを作る準備に取りかかっていました。

ホッキカレーを作るに当たっては、まずホッキガイを剥くことから始まりました。皆さんが貝を剥くときはどうしていますか？ 1人で剥くときは、だいたい黙ってやることが多いのですが、今回は3人で貝剥きをしたので、お定まりの井戸端会議が始まりました。それでも、「慣れ」とは恐ろしいもので、いくら口を激しく動かしていても、剥く方の手まで影響されることはありませんでした。どれ位の量を剥いたかと言いますと、重さで約90kg、数にして500個強でした。以外に手間がかかったのが、貝の剥き身をきれいにする作業と、ちょうど良い大きさに切る作業でした。特に、砂抜きをしていない貝などは中が砂だらけで、しかも剥いた数もかなり多かったので、身をきれいにする作業はとても大変でした。剥き始めから、剥き身をきれいにして切り終わるまでに、だいたい3時間くらいかかりました。6人で手分けをして作業を行ったのですが、開始した時間も夕方遅くなってからの事だったので、下ごしらえが終了したのは夜の8時頃になってしまいました。前日の夜8時まで貝剥きをし、当日は朝8時に組合事務所へ集合し、野菜切りなどの下準備

をしてから、生涯学習センターに向かいました。

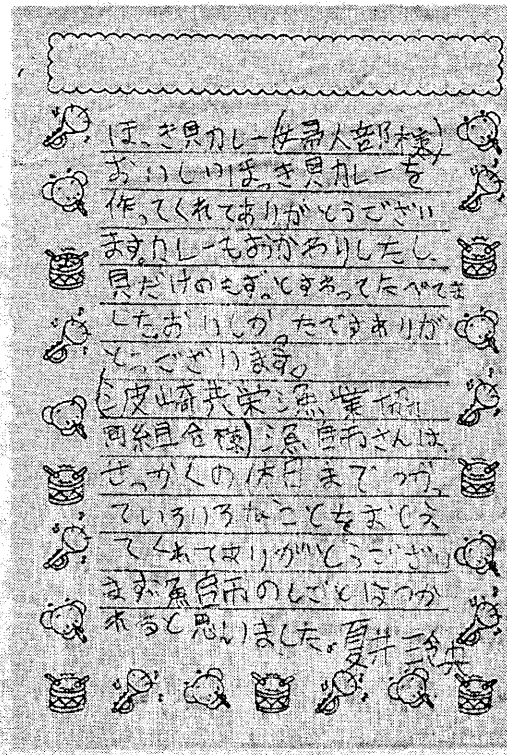
右の写真は、ちょうどカレールーを入れる前の、鍋で具を煮ている場面です。この、カレーの具についてですが、鍋に入る前に一悶着ありました。それは、各家庭で野菜の切り方や大きさ、量がそれぞれ違う事が原因でした。「うちは具がちゃんと入っている様なものでなければダメなの」とか、「うちはニンジンが嫌いだから、ニンジンは少なめよ!」と、てんでバラバラでした。でも、結局は「子供達が食べやすい大きさにしよう」と言うところに落ち着きました。



いろいろと雑談が混じりながらでしたが、おいしいホッキカレーができあがりました。このあと、できあがったカレーとご飯を先生達に引き渡し、ボランティアの人と先生達で盛りつけをしていただきました。去年は外で盛りつけを行ったのですが、今年は風が強く、砂が入ってしまうかも知れないということで、室内で盛りつけしました。去年は、子供達が自分でよそって自由に食べ始めていたのですが、今年は先生達が室内で盛りつけている間、みんな外に出て集まり、あいさつが行われました。あいさつの後、先生から「今日カレーに使ったホッキガイについて、子供達に何かお話ししてください。」という要望があったので、部長がホッキガイについて話をしました。その内容は、「ホッキガイはハマグリよりも大きいんだよ」とか、「こんな形をしているんだよ」というものでしたが、実物が無かったために、子供達は「貝がそんなに大きいわけないだろう……」というような感じで聞いているみたいでした。ですから、来年、また同じような機会があったら、その時はぜひ実物を見せてあげようと思いました。

風は強かったのですが、天気は良かったので、子供達はみな広場の芝生の上でカレーを食べました。実はこの時、カレーに入りきれずに残ったホッキガイの剥き身も一緒に出してみました。皆さんはご承知だと思いますが、ホッキガイは湯通しすると色が鮮やかになって、とてもおいしそうに見えます。でも、この日の剥き身は見た目が悪かったため、最初子供達は「何あれ〜?」という感じで遠巻きに見ているだけでした。しばらくして、1人の男の子が試しに食べてみました。するとどうでしょう、おいしいということが判ると、他の子供達も次々と食べるようになり、結局剥き身もすべて無くなってしまいました。食事が終わり、子供達からお礼の言葉をもらい、終わりのあいさつをしました。

6. 波及効果



昨年に引き続き、今年もセカンドスクールの対応を受けるということにしましたが、役員の間からはあまり気乗りしていないような雰囲気がありました。しかし、食べ終わって食器を返しに来た時の、子供達の「とてもおいしかったよ。」という声と、後日届いた感謝の手紙を読んで、「やっぱりやって良かったね。」「こんなに喜んでもらえるなら、作り甲斐もあるよね。」と、今後の活動の励みとなりました。そして、このような活動を通じて、自分たちの捕っている貝や魚を、もっと広めていこうという気持ちが大きく膨らんできました。

7. 今後の課題

この活動に関して今後の課題を挙げるとしたら、女性部というよりも組合全体としての要望になりますが、このセカンドスクールを開催する時期を早めてもらうこと、そして波崎町内を拠点として実施してもらえると幸いです。そうすれば、時化で中止になってしまう地曳き網の体験操業も行えるでしょうし、私たちもより良い対応をしてあげられるのではないかと思います。